

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 2 号）の送付について

このことについて、つぎのとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願いいたします。

記

1 情報の内容 **キウイフルーツかいよう病 Psa3 型の発生園地の拡大防止対策**

2 発生状況

昨年の未発生地域である東温市のホート 16A（4 月 3 日確認）、宇和島市の紅妃（4 月 8 日確認）で発生を確認した。さらに、昨年の発生地域である西条市のレインボーレッド（4 月 13 日）でかいよう病 Psa3 型の発病が新たに確認された（5 園地 42a）。現時点ではヘイワードの発生は確認していない。

3 病徴と被害の特徴

- （1）本病は、枝幹からの細菌液の浸出部位の暗赤色化、発芽時の芽枯れや枝の枯死、展葉後の葉に多数生じる小褐点、開花前の蕾のがくの一部分の変色や蕾の枯死が不自然に多いなどの兆候で発病に気付く。開花期の花の枯死は花腐細菌病と間違えやすいので注意する。
- （2）冬季から梅雨頃まで病徴が発現しやすく、夏期には病勢が衰えてくる（病原菌は死滅しない）。

4 発生の見通し

- （1）今年の発病傾向から昨年発生が確認された地域以外でも発病が確認される可能性が高い。
- （2）昨年発生した地域や園地周辺は特に発病に注意する。
- （3）4 月以降の天候は、降水量が多く（平年の 185%）低気圧の影響で強風日が数回あり感染に助長的であった。また、4 月 16 日発表の 1 か月予報では降水量は並か多いとされ、今後も感染に助長的である。

5 拡散防止対策

- （1）園地見回りを頻繁に行い上記病徴を見逃さないよう **早期発見と病徴部の早期除去**を行う（伐採基準については、平成 27 年 4 月改訂の「キウイフルーツかいよう病 Psa3 型の当面の防除方針」に基づき発病程度に応じて早く対応する）。
- （2）各地域の基幹防除は必ず行うとともに、幼葉期は気孔、水孔、傷口から感染しやすく、強い風雨により発病が著しく助長されるため、**強風を伴う降雨後には速やかにアグリマイシン-100 等の抗生物質剤を散布**する。
- （3）新梢新長期は、風により容易に枝折れしやすいので園地の防風対策を行う。
- （4）4 月下旬以降は、コサイド3000の2000倍（使用時期：収穫後～果実肥大期、薬害軽減のため炭酸カルシウム剤200倍を加用）、アグリマイシン-100の1,000倍（使用時期：落花期まで3回以内）、アグレプト水和剤1,000倍（使用時期：収穫90日前まで4回以内）、マイシン水和剤1,000倍（使用時期：収穫90日前まで4回以内）またはカスミン液剤400倍（使用時期：収穫90日前まで4回以内）のいずれかを使用する。